

光と緑の風通信

発行/2026年7月10日 編集/福島県立医科大学看護学部 〒960-1295 福島市光が丘1番地 Tel.024-547-1111 (代)

学部長あいさつ

人とかわるということ

看護学部長 高橋 香子



看護は、人とのかわりを基盤とする学問であり、実践です。

人は一人では生きていくことができず、互いに支え合い、理解し合いながら社会の中で生きています。看護もまた、人とのかわりの中で成り立つ専門職であり、一人ひとりの人生に寄り添う仕事です。看護の対象となる人々は、たとえ同じ疾患を抱えていても、それぞれ異なる人生を歩み、異なる価値観や思いをもっています。皆さんがこれまで経験したことのない人生を生きてきた人々と向き合うことになります。時には思いがうまく伝わらず、悩むこともあるでしょう。しかし、その経験こそが皆さんを成長させます。大学生活の中で出会う人々とのかわりをどうか大切にしてください。その一つひとつの出会いの中で多様な価値観に触れ、相手を理解し、自分自身を見つめる経験を重ねてください。そうした積み重ねが、皆さん自身を成長させ、相手に寄り添う看護、そして未来の看護へとつながっていきます。

(たかはし こうこ)

ニュース&トピック

看護学部3年生を対象とした 「就職ガイダンス」を実施

医療人育成・支援センター
看護学教育研修部門 黒田 るみ

看護学部と医療人育成・支援センター看護学教育研修部門の共催による、3年生を対象とした「就職ガイダンス」が、令和8年2月6日(金)13:00-17:30に本学8号館および7号館を会場に開催されました。

当日は、福島県立医科大学附属病院や会津医療センターをはじめ、県内の民間病院13施設、福島県庁、相双地区の保健師など、県内の主要な医療保健機関にご協力いただきました。学生は、各ブースを選んで周り、現場の皆様から施設の特徴や仕事の内容について直接お話を伺いました。

施設の代表者の中には、現場で活躍する本学部卒業生の姿もありました。本ガイダンスは今年度も、学生が現場の価値観に触れると同時に、医療機関側も次代を担う学生の視点を知る、県内の医療の現状を共有し合う有意義な交流の場となったようです。

(くろだ るみ)



新 人 生 か ら ひ と こ と

自分の夢に向かって

看護学部1年 伊藤 優太



入学してから早2か月、大学生活にも慣れ、今までは違う日常生活を楽しんでいます。
小さいころから医療の現場で働きたいという思いを持ち、中学生になつて初めて看護師という職業に憧れてから、その夢に向かって歩んできました。

福島県立医科大学に入学して、たくさんの仲間とともに学ぶことができることをとてもうれしく思います。
これから4年間、楽しいこともつらいこともあるかと思いますが、看護師になるという自分の夢に向かって、看護を学んでいきたいと思っています。
(いとう ゆうた)

新天地での学びに期待して

大学院博士前期課程1年 阿部 史也



私は今年度より大学院の精神看護学領域(CNSコース)へ進学しました。これまで病棟および地域にて精神看護、精神保健を中心にキャリアを重ねてきました。知識や経験を重ねる楽しさを感じる一方、「対象者にとって適切なアプローチができているだろうか?」という疑問が高まり、立ち止まって学ぶ機会が欲しいと考えたため、大学院進学を決意しました。

他県出身ということもあり、福島を楽しみつつ勉学に励みたいと考えています。
(あべ ふみや)

大学院看護学研究科より

初めての国際学会

大学院博士後期課程3年 佐藤 健斗

2026年2月26～28日にシンガポールで開催された29th EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS(EAFONS 2026)に参加してきました。国際学会での口演発表は初めてだったのでとても不安でしたが、マハム先生と練習した甲斐もあり自分の言葉で伝えることができました。黒田先生と大内先生の実験も心強かったです。

英語での発表に対して苦手意識を持っていましたが、今回参加して、もっと海外でチャレンジして良いんだと思えました。EAFONSは英語を第一言語としない参加者が多く、各国の発音や話し方の違いがあるなかで発表や

討論が行われます。完璧な英語を話すことよりも、自分の研究を伝えようとする熱意が重要だと直に感じました。とはいえ、英語ができるに越したことはないので、練習は継続したいと思います。

また、タイの大学院生と友達になりました。彼は来年日本に旅行する計画を立てており、不安ですが私が案内します。私のEAFONSはまだ続きそうです。(さとう けんとう)



令和7年度優秀論文賞受賞者

令和7年度大学院博士前期課程の優秀論文賞受賞者です。
おめでとうございます!

西 牧 直人 さん (精神看護学領域)
小 椋 博美 さん (精神看護学領域)
高 橋 このみ さん (母性看護学・助産学領域)



新任教員紹介

母性看護学・
助産学部門



佐藤 いずみ 教授

はじめまして。助産師コースに着任いたしました。助産師として自信をもって臨床で活躍できるための学修環境づくりに努めてまいります。(さとう いずみ)

小児・
精神看護学部門



弓気田 美香 講師

病気や障がいがあってもその子らしく生活できる支援を一緒に考えていきたいと思っています。(ゆげた みか)

成人・
老年看護学部門



那須 史明 助教

老年看護学の学びを通じてこれからの超高齢社会を支える看護師を育成できるよう精一杯努めてまいります。(なす ふみあき)

成人・老年看護学部門



加藤 修人 助手

人事交流として附属病院より着任しました。出身大学において、今度は教員という立場で学生の学びを支えたいと思います。(かとう しゅうと)

基礎看護学部門



石井 和華子 助手

再着任することができ大変嬉しく思っております。学生の皆さんが学びに集中できるよう尽力いたします。(いしい わかこ)

研究紹介

小児アレルギー疾患をもつ こどもへの支援

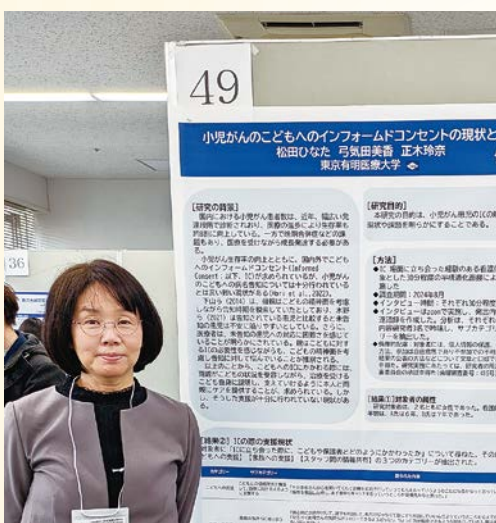
小児・精神看護学部門 講師 弓気田 美香

私は、小児アレルギーをもつこどもとその保護者への支援について研究しています。小児アレルギーに興味をもったきっかけは、病院での看護経験です。私が勤務していた病院には、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、気管支喘息をもつこどもたちが多く入院していました。こどもの成長とともに症状が軽くなり、治療が必要なくなることもありましたが、学童期や思春期まで治療を続けるこどもも少なくありません。

こどもたちが自分の病気を理解し、治療を続けていくためには、前向きに病気と向き合う気持ちが必要です。しかし、食物アレルギーやアトピー性皮膚炎のあるこどもたちは、自信を失いやすく、生活の質(QOL)が低下しやすいことがわかっています。

こうしたこどもたちが安心して治療を続けられるよう、成長や発達に合わせた支援の方法を明らかにし、こどもと家族のよりよい生活につなげることを目指しています。

(ゆげた みか)



令和7年度 卒業生の国家試験の結果と進路

令和7年度 保健師・助産師・看護師国家試験の合格状況

令和8年3月24日現在

国家試験の結果は、保健師は95.1%、助産師は100%、看護師は98.8%の合格で全国平均を上回りました。

■ 保健師

※新卒のみ

	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
受験者(人)	41	40	41	42	83
合格者(人)	39	40	40	41	78
合格率(%)	95.1	100.0	97.6	97.6	94.0
全国合格率(%)	89.9	96.4	97.7	96.8	93.0

■ 助産師

※新卒のみ

	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
受験者(人)	23	1	—	5	5
合格者(人)	23	1	—	5	5
合格率(%)	100.0	100.0	—	100.0	100.0
全国合格率(%)	99.8	99.3	99.3	95.9	99.8

■ 看護師

※新卒のみ

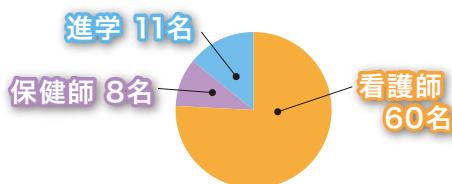
	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
受験者(人)	82	79	80	84	83
合格者(人)	81	79	77	82	82
合格率(%)	98.8	100.0	96.3	97.6	98.8
全国合格率(%)	94.1	95.9	93.2	95.5	96.5

令和7年度 看護学部卒業生の進路状況

令和8年3月31日現在

令和7年度の看護学部卒業生の主な就職先は、福島県内38名、福島県外30名で、就職した学生のうち55.9%が県内に就職しました。また、福島県内に就職した学生のうち31名(81.5%)が本学附属病院に就職しました。

■ 卒業者の内訳



■ 就職(県内)

就職先	職種	人数	都道府県	区分
福島県立医科大学附属病院	看護師	31	福島市	病院
総合南東北病院	看護師	1	郡山市	病院
あさかホスピタル	看護師	1	郡山市	病院
福島県庁	保健師	4	福島市	行政
福島市	保健師	1	福島市	行政
県内就職 計		38		

■ 進学

進学先	人数	都道府県	区分
福島県立医科大学大学院(助産師コース)	4	福島県	大学院
福島県立医科大学別科助産学専攻	5	福島県	別科
山形大学看護教諭特別別科	1	山形県	別科
神奈川県立衛生看護専門学校助産師学科	1	神奈川県	専門学校
進学 計	11		

■ 就職(県外)

就職先	職種	人数	都道府県	区分
東北大学病院	看護師	1	宮城県	病院
仙台市立病院	看護師	2	宮城県	病院
湘南美容クリニック山形院	看護師	1	山形県	診療所
茨城県病院局	看護師	1	茨城県	病院
筑波メディカルセンター病院	看護師	1	茨城県	病院
水戸赤十字病院	看護師	1	茨城県	病院
自治医科大学附属病院	看護師	2	栃木県	病院
地方独立行政法人栃木県立がんセンター	看護師	1	栃木県	病院
済生会宇都宮病院	看護師	1	栃木県	病院
戸田中央総合病院	看護師	2	埼玉県	病院
国立がん研究センター中央病院	看護師	1	東京都	病院
東京科学大学病院	看護師	1	東京都	病院
東京大学医学部付属病院	看護師	2	東京都	病院
東京逓信病院	看護師	1	東京都	病院
聖路加国際病院	看護師	1	東京都	病院
国家公務員共済組合連合会虎の門病院	看護師	2	東京都	病院
横浜国立大学附属病院	看護師	2	神奈川県	病院
国立がん研究センター東病院	看護師	1	千葉県	病院
順天堂大学医学部附属浦安病院	看護師	1	千葉県	病院
静岡市立静岡病院	看護師	1	静岡県	病院
大阪赤十字病院	看護師	1	大阪府	病院
茨城県庁	保健師	1	茨城県	行政
朝霞市役所	保健師	1	埼玉県	行政
神奈川県庁	保健師	1	神奈川県	行政
県外就職 計		30		

編集後記

今回も多くの皆様のご協力により「光と緑の風通信第71号」を発行できましたこと、心より御礼申し上げます。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生活は、知識や技術を学ぶだけでなく、多様な価値観を持つ人々との出会いを通して、自分自身や社会への理解を深めていく大切な時間です。同級生はもちろん先輩・後輩、他学部の学生との交流の中で得られる学びは、皆さんの視野を広げ、これからの人生を豊かにしてくれることでしょう。

看護を学ぶ道の中には、喜びだけでなく悩みや迷いもあるかもしれません。しかし、そのつひつひとの経験が、人を支える力へとつながっていきます。皆さんが福島県立医科大学看護学部で大きく成長し、新たな希望を社会にもたらしてくださることを心より期待しています。四季折々のキャンパスの風景とともに、実り多い学生生活となることを願っています。

編集長 田村 達弥

編集委員

田村 達弥
古溝 陽子
安部 猛
佐藤 いずみ
丸山 育子
井上 水絵
杉本 幸子
高崎 千聡
關亦 明子